

通常の学級に在籍する子どもたちのために

みんなに分かりやすい 授業づくりのポイント！ (平成26年度版)

北海道教育委員会では、本道における特別支援教育の一層の充実を図るため、昨年度に引き続き、平成26年度も「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」を実施しました。

本資料は、平成26年度の調査結果を踏まえ、昨年度の資料の内容に「困難な状況への対応例（高等学校編）」を加えるなどして、指導上の配慮事項を掲載しています。

各学校におきましては、発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する「校内研修プログラム」とあわせて参考にいただき、特別な教育的支援を必要とする子ども一人一人の指導や支援の充実に向け、本資料を御活用ください。

※「校内研修プログラム」は、北海道立特別支援教育センターのWebページ
(<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>) 上に掲載しています。

平成27年3月
北海道教育委員会

通常の学級に在籍する教育的支援が必要な子どもの状況

各学校では、特別な教育的支援を必要とする子どもへの支援が行われるよう、校内委員会の設置をはじめ、体制整備が進んできています。その一方で、「日々の授業や学級経営の中で子どもの困難な状況に応じた指導をどのように進めたらよいのか」など、具体的な対応に苦慮している状況も見られ、指導や支援の更なる充実が求められています。

北海道の状況

- ・校内委員会の設置・・・・・・・・・・100%
- ・実態把握の実施・・・・・・・・・・100%
- ・コーディネーターの指名・・・・・・・・100%

平成26年度特別支援教育体制整備状況調査（文部科学省、平成26年）



特別な教育的支援を必要とする子どもの例

- ・教科書をうまく読めない。
- ・漢字が覚えられない。
- ・計算ミスが多い。
- ・文章題が苦手。
- ・図形が描けない。



- ・会話が一方的でかみ合わない。
- ・人との距離感がつかめない。
- ・友達づきあいが苦手。



- ・忘れ物やなくし物が多い。
- ・不注意なミスが多い。
- ・計画をたてるのが苦手。
- ・整理整頓が苦手。



- ・そわそわして落ち着かない。
- ・集中力が短い。
- ・やり遂げることが難しい。
- ・おしゃべりが多い



まず大切なことは、特別な教育的支援を必要としている子どもに気付くことです。その気付きから、必要とする教育的ニーズを把握し、指導や支援の充実を図っていきます。

また、こうした指導や支援を生かした教育活動は、すべての子どもにも分かりやすい（ユニバーサルデザイン）授業につながります。

POINT ユニバーサルデザインの視点を生かした学級づくり・授業づくり

ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。こうしたユニバーサルデザインは、学級づくり、授業づくりにおいても大切な視点となります。ユニバーサルデザインの取組として「視覚支援・見通し・構造化」などの『ハード面』と、「教師のほめ方・叱り方・教師の立ち振る舞い・分かりやすい指示の出し方・信頼される教師になること」などの『ソフト面』は、車の両輪として欠かすことはできません。

北海道教育委員会では、平成26年9月に、幼稚園や小・中学校の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもへの支援の一層の充実を図るため、在籍の割合及びその支援状況等を把握することを目的に調査を実施しました。

通常の学級に在籍している特別な教育的支援が必要な子どもの割合

校内委員会において特別な教育的支援が必要であると判断された子どもは幼稚園で5.6%、小学校で4.0%、中学校で1.6%、高等学校で0.6%通常の学級に在籍していることが分かりました。

種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
項目				
幼児児童生徒数に占める割合	5.6%	4.0%	1.6%	0.6%

教育的支援が必要と判断された理由（上位3項目）

- ・知的な遅れはないが、発達の状態による学習面や行動面の困難があるため（74.5%）
- ・知的な遅れによる学習上または生活上の困難があるため（14.8%）
- ・その他（8.5%）

特別な教育的支援が必要な子どもたちの困難さについて

困難の状況については、幼稚園では「注意集中」、小学校・中学校では「推論する」、「計算する」ことや「聞く」こと、高等学校では「人とのかかわり」について、多い結果となりました。

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	内容	割合	内容	割合	内容	割合	内容	割合
1	気が散ることが多い	71.5%	気が散ることが多い	52.4%	文章題を解くことが難しい	52.6%	自分が分からない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	46.3%
2	自分が分からない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	68.1%	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	51.7%	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい	48.7%	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	43.8%
3	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	66.7%	文章題を解くことが難しい	49.6%	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	47.3%	友達関係をうまく築けなかったり、集団での活動ができなかったりする事が多い	43.3%

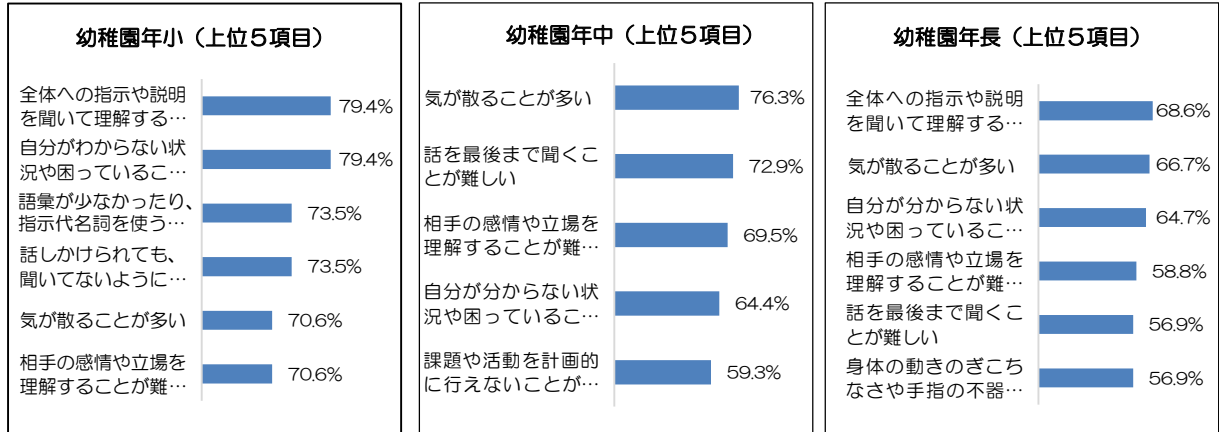
特別な教育的支援を必要とする子どものための支援の手立て

本資料では、このたびの調査結果をもとに、特別な教育的支援を必要とする幼児指導生徒への指導や支援における、指導上の配慮事項等を示しました。

また「**校内研修プログラム**」の**関連ページ**も合わせて掲載していますので、各学校においては、校内研修で本資料を活用するなどして、より一人一人に応じた支援について研修を深めることを期待します。

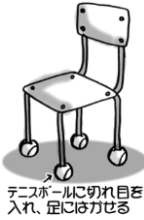
調査結果を踏まえた子どもの困難な状況への対応例 ～幼稚園編～

【調査結果】「気が散ることが多い」、「全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい」「相手の感情や立場を理解することが難しく、一方的なかかわりをする事がある」など、「注意集中」や「聞く」こと、「人とのかかわり方」や「話すこと」に関すること等に困難があることが分かりました。




【この時期の特徴】基本的な生活習慣が身に付き、仲間と活発に遊びます。また、発達や成長に伴って、それぞれが自分の役割を果たし、決まりを守ることの大切さを実感する時期です。

「注意集中」や「聞く」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
●気が散りやすく、必要以上に刺激に反応してしまうことや、ぼんやりしていることがある。	○教室環境を整える。  テニスボールに切れ目を入れ、足にはかせる	□机や椅子を動かす音に過敏に反応をする場合は、机と椅子の足にテニスボールや、布を付け音が出ないようにする。 □刺激となる掲示物等の配置や配色を工夫する。 □学級全体に声の大きさの調整を促し、ひそひそ声で話す時間を指示する。	☆刺激を減らすことで、対象の幼児はもとより、学級全体の幼児が、活動に集中できるようになる。
●話を最後まで聞くことが難しい。	○提示の仕方を工夫する。	□幼児が理解しやすいように、分かりやすい絵や動作を交えたり、実際の活動を示したりする。	
●全体への指示や説明を聞くことが難しい。		□関心のある題材を使ったり、紙芝居やテレビ画面、パソコン等、注目しやすい教材・教具を活用したりして提示する。	
●指示内容についての理解が困難なため、指示に従うことが難しい。		□悲しみ、驚きなど、場の状況や心の動き、あるいは話の内容などによって、表情を豊かにして話をする。	
●全体に話していることを自分に話していると理解していない。	○話し始める前や重要なポイントを話す前に、話し手への注意を喚起する。	□時々対象となる幼児の名前を呼ぶことで、注意を喚起する。 □対象となる幼児と視線を合わせたり、あらかじめ決めてある合図をしたりして、注意を喚起する。	

「人とのかかわり方」に関することへの支援

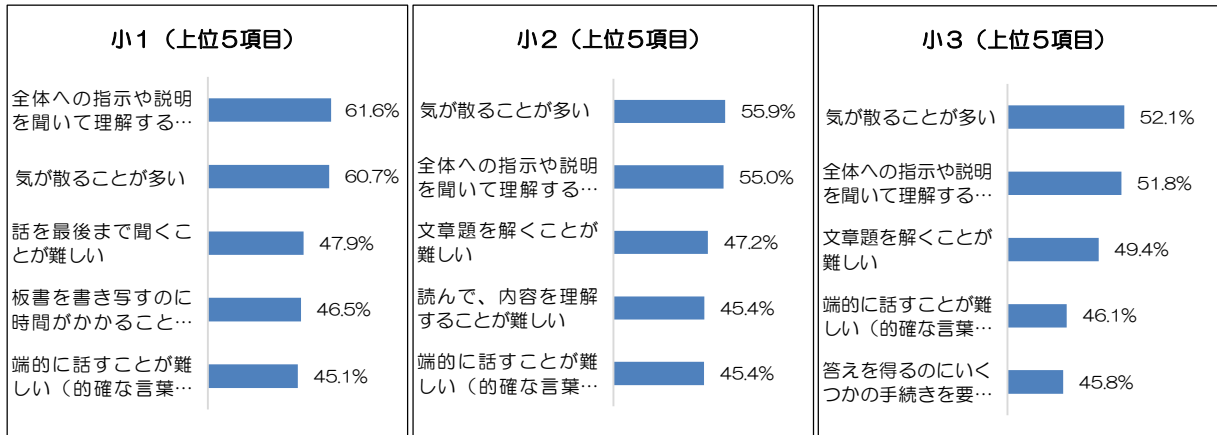
●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●友達関係をうまく築けない。</p> <p>●相手の感情や立場を理解することが難しく、一方的なかかわりをすることが多い。</p> <p>●集団での活動ができないことが多い。</p> 	<p>○相手とのかかわりがもてる遊び方や具体的な指標を示すなどの工夫をする。</p> <p>○集団での活動の際には、活動内容と手順が視覚的に分かるようにする。</p> <p>○指示の仕方や教材提示の方法を工夫する。</p> <p>○教師と幼児の信頼関係を築く。</p>	<p>□視覚的に理解しやすい手段を活用する（絵カード、写真カード、ビデオ等の活用）</p> <p>□役割を決めたやりとり遊びの中で、気持ちを話したり、考えたりする機会を設定する。</p> <p>□教師が、友達とのかかわり方のモデルを示す。</p> <p>□「いつ」「何を」「どのように」「どのくらい」行うのかを伝えるとともに、活動の途中で確認できるように、あらかじめシナリオ（予定表、約束等）をつくり、確認しながら行動したり、自分でチェックしたりするように促す。</p> <p>【→校内研修プログラム 幼 14 ページ】</p> <p>□個別にゆっくりと伝える、2つの指示を1度にしなないなど伝え方を工夫する。</p> <p>□活動の始まりや終わりのきっかけに気が付くことができるよう、写真や絵などの見て分かる、音楽やタイマーなどの聞いて分かる手掛かりを用いる。</p> <p>□幼児への言葉かけを好意に満ちた言葉かけにかえて伝える。</p> <p>【→校内研修プログラム 幼 11 ページ】</p>	<p>☆教師が友達とのかかわり方のモデルを示すことにより、友達のよい面や友達とのかかわり方について分かる。</p> <p>☆個別にゆっくりと伝える、好意に満ちた言葉かけで伝えることにより、幼児が理解しやすくなる。</p>

「話すこと」への支援

	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●端的に話すことが難しい。</p> <p>●自分が分からないことや困っていることを相手に伝えることができない。また、不適切な表現になり、その結果、友達とトラブルになる。</p>	<p>○急かさずゆったりとした雰囲気をつくる。</p> <p>○言語表現だけで判断せず、表情や前後の状況等も加えて判断する。</p>	<p>□共感して聞いてから、正しい表現の仕方を知らせる。</p> <p>□言語表現だけでなく、文字やサインなどの非言語を用いる等、表現方法を決めておく。また、不適切な表現ではなく、代わりとなる正しい伝え方を伝える。</p>	<p>☆文字やサインなどの非言語を用いることにより、困っていることや自分の要求を伝えることができる。</p>



調査結果を踏まえた子どもの困難な状況について ～小学校 1、2、3 年生編～

【調査結果】「気が散ることが多い」「全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい」「話を最後まで聞くことが難しい」「文章題を解くことが難しい」など、主に「注意集中」や、「聞く」こと、「推論する」こと等に困難があることが分かりました。

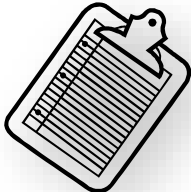


【この時期の特徴】小学校に入学すると教科の学習がはじまり、学習習慣が身に付いてきます。反面、学校生活では、自分の思い通りにならなくて我慢したり、相手の気持ちが受け止められずに失敗したりするなど、ストレスを抱える様子が見られてきます。

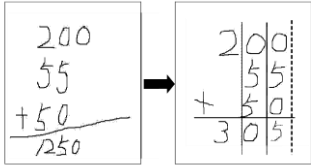
「注意集中」への支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●気が散りやすく、必要以上に刺激に反応してしまうことや、ぼんやりしていることがある。</p>  	<p>○教師の立ち位置を工夫する。</p> <p>○教師の話し方を工夫する。</p> <p>○提示の仕方を工夫する。</p> <p>○授業を短いユニットに分ける。</p> <p>○教室環境を整える。</p>	<p>□配慮が必要な児童の近くにいるようにし、必要に応じて言葉をかけるなどする。</p> <p>□ゆっくり話したり、間をとったりするなど、児童が聞き取りやすいようにする。</p> <p>□簡潔な説明など、言葉を減らす、また、大きな声で注意しないようにする。</p> <p>□話の要点を絞り、指示や説明を簡潔にする。</p> <p>□一度に多くの情報を含んだ物を見せずに、見せたい物を焦点化して提示する。</p> <p>□一時間の授業を短い時間ごとに分けて構成する。</p> <p>例) ①説明 ②グループでの取組 ③発表・・・</p> <p>□教室側方のロッカー等にカーテンを掛ける。</p> <p>□机の上には授業に必要なもの以外は置かない。</p>	<p>☆要点を絞って話すことにより、児童が「何をすべきか」を理解し、自ら行動できるようになる。</p> <p>☆授業の展開を短いユニットに分けることで、学級全体の児童が集中しやすくなる。</p>

「聞く」ことへの支援

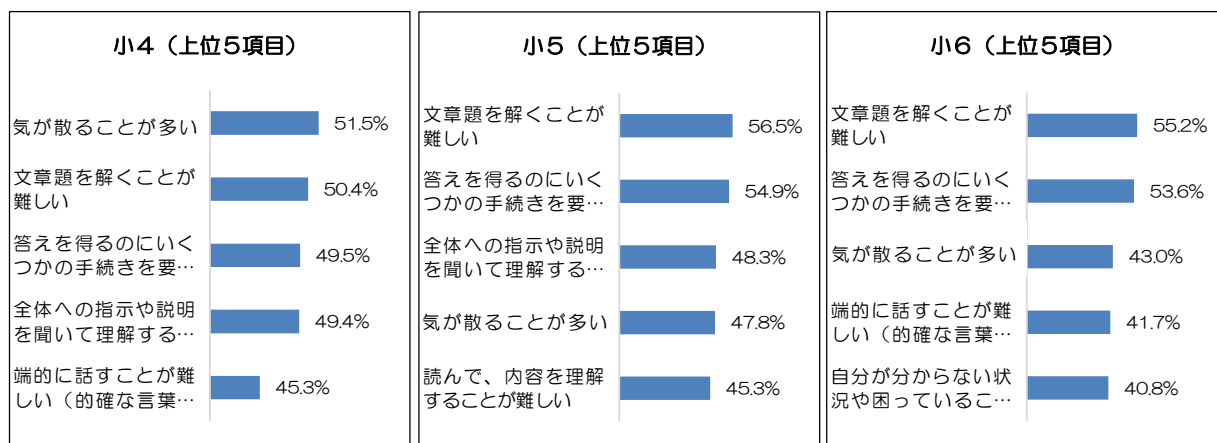
●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<ul style="list-style-type: none"> ●全体への指示や説明を聞くことが難しい。 ●全体に話していることを自分に話していると理解していない。 ●話を最後まで聞くことが難しい。 ●指示内容についての理解が困難なため、指示に従うことが難しい。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し始める前や重要なポイントを話す際に、話し手への注意を喚起する。 ○児童が記憶できる量に配慮して話す。 ○指示内容を意識する手掛かりとなるものを工夫する。 ○教師と児童の信頼関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> □学級全体に話していることは、自分に対しても伝えられているということを意識させるために、時々対象となる児童の名前を呼ぶこと、ジェスチャーやアイコンタクトで注意を喚起する。 【→校内研修プログラム 70 ページ】 □指示や説明の内容を精選する。 □質問に答えさせたり、実際に行動させたりして、理解しているかどうかの確認をする。 【→校内研修プログラム 小 27 ページ】 □話の後に聞いた内容を忘れないようにメモを取る時間を設定する。 □話の内容に応じた（項目等を示した）メモ用紙を用意する。 □児童への言葉がけを好意に満ちた言葉がけにかえて伝える。 【→校内研修プログラム 小 24 ページ】 	<p>☆ 指示や説明の内容を精選することや、好意に満ちた言葉がけをすることにより、児童が理解しやすくなる。</p>

「推論する」ことや「計算する」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<ul style="list-style-type: none"> ●文章題を解くのが難しい。 ●文章題を読んで立式することが難しい。 ●問題に出てくる算数の用語（合わせて、全部で、違い、残り）の意味が理解できない。 ●計算するのに時間がかかる。 ●筆算で桁を揃えることが難しい。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容にそって、題意を視覚的に理解できるようにする。 ○買い物など、生活体験や体験的な活動と関連させて行う。 ○計算の細かいステップを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> □文章題を絵に表したり、具体物を使用したりして、問題文の内容を再現する。 □算数の用語の意味を実際の経験と関連させ、視覚的に理解できるように掲示を工夫する □縦に補助線を入れた筆算用の用紙を用いる。 □補助線を入れることにより、桁をそろえ、計算の対象となる数字を明確に把握できるようにする。 	<p>☆ 筆算用の用紙を教室に準備することなどにより、対象の児童が「自分だけ特別視されている」と拒むことが減るようになる。</p>

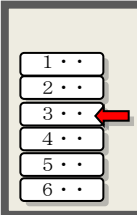
調査結果を踏まえた子どもの困難な状況について ～小学校4、5、6年生編～

【調査結果】「文章題を解くことが難しい」「答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい」「気が散ることが多い」など、「推論する」ことや「計算する」こと、「聞く」こと、「注意集中」等に困難があることが分かりました。




【この時期の特徴】学校行事や委員会活動、異学年集団による活動などで、自分の役割や責任を自覚して活動するようになります。

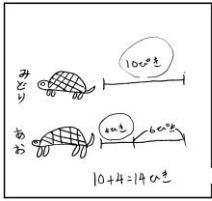
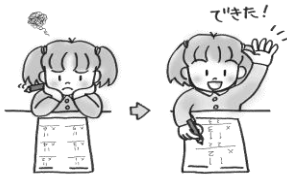
「注意集中」への支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
●気が散ることが多い。	<p>○活動の途中で、言葉がけをする。</p> <p>○課題の設定を工夫する。</p> <p>○学習の流れを示し見通しをもたせる。</p>	<p>□机間巡視を行うとともに、取組状況を確認し、必要な助言を行う。</p> <p>□取組の途中で、頑張りを認める。</p> <p>□短時間で達成できるように課題の内容や量を工夫する。</p> <p>□最初から難しい課題ではなく、基礎的な課題から、少しずつ複雑な課題に取り組めるようにする。</p> <p>□学習の始まりと終わりを明示する。 例)「ここまで取り組んだら終了」</p> <p>□黒板に学習の流れを示し、現在、取り組んでいる段階が分かるようにする。</p> <p>□「教科書の△ページの□□」を指さすよう促したり、視覚的に分かるよう提示したりする。</p>	<p>☆取組の途中で認めることにより、児童の自信につながり、学習意欲の向上が図られる。</p> <p>☆終わりの時間を示すことにより、集中して活動できるようになる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p style="margin-left: 20px;">（例）本時の学習の流れを示すとともに、現在行っている取組が分かるように、矢印で示す。</p> </div>		<p>【→校内研修プログラム 小27ページ】</p>	

「聞く」ことへの支援

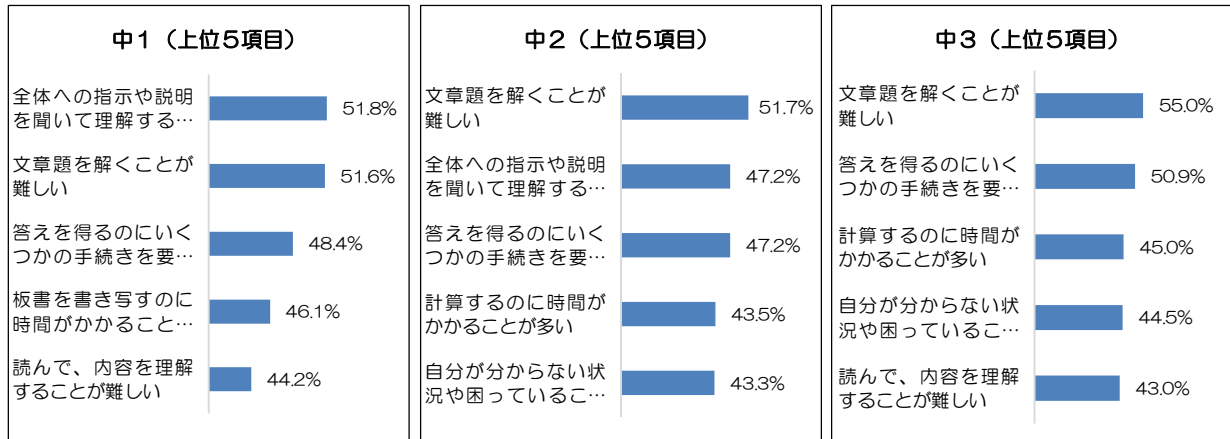
● 困難な状況	○ 配慮のポイント	□ 具体的な支援例	☆ 予想される効果
<p>● 全体への指示や説明を聞くことが難しい。</p> 	<p>○ 静かに話を聞く姿勢をとらせる。</p> <p>○ 大切な指示は文字で示す。</p> <p>○ 教師と児童の信頼関係を築く。</p>	<p>□ 話をする前に何の話をするのか（話の概要）、いくつ話をするのかを知らせておき、要点が捉えられやすいようにする。</p> <p>□ 要点を絞って短く話す。</p> <p>□ 一切おしゃべりをしない、静寂の時間を設定する。</p> <p>□ 必ず聞いて欲しいことは、板書するなど見える形で表す。</p> <p>□ 話の内容を記録するよう促す。</p> <p>□ 児童への言葉がけを好意に満ちた言葉がけにかえて伝える。</p> <p>【→校内研修プログラム 小24ページ】</p>	<p>☆ 静寂の時間の設定や好意に満ちた言葉がけにより、学級全体の児童が落ち着き、集中して聞くことができる姿勢につながる。</p>

「推論する」ことや「計算する」ことへの支援

● 困難な状況	○ 配慮のポイント	□ 具体的な支援例	☆ 予想される効果
<p>● 文章題を解くことが難しい。</p> 	<p>○ 文章の内容にそって、視覚的にイメージできるようにする。</p>	<p>□ 文章題を絵に表すなど、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>□ 学習の手引となるヒントカードを児童の手元に置いておく。</p> <p>□ 文章題の種類に応じて、題意を絵に表すための枠や手がかりとなる言葉を記入したワークシートを用意する。また、実物投影機やタブレット端末を活用し示す。</p> <p>【→校内研修プログラム 小27ページ】</p>	<p>☆ 実物投影機やタブレット端末等を活用することにより、ワークシートやノート等の書き方が分からない児童への参考となり、学習内容の理解を深めることにつながる。</p>
<p>● 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。</p> 	<p>○ 活動の手順を分かりやすく伝える。</p> <p>○ 段階を追って問題を解けるように、スモールステップに分ける。</p>	<p>□ 複雑な問題文は短く簡単な文に直したり、考えやすいように内容を整理したりして示す。</p> <p>□ 手順を文字で示したり、視覚的な手掛かりを使ったりして示す。</p>	

調査結果を踏まえた子どもの困難な状況について ～中学校1、2、3年生編～

【調査結果】「文章題を解くことが難しい」「答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい」「計算するのに時間がかかる」「全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい」など、「推論する」ことや「計算する」こと、「聞く」こと、「読む」こと等に困難があることが分かりました。



【この時期の特徴】中学校になると、学習の量が増え、内容も難しくなります。新たな友人関係ができるとともに、友人との違いに劣等感をもつこともあります。

「推論する」ことや「計算する」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●文章題を解くことが難しい。</p> <p>●答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。</p> <p>●計算するのに時間がかかることが多い。</p>	<p>○書かれた情報を読み取れるように配慮する。</p> <p>○計算の細かいステップを提示する。</p> <p>○苦手意識がある生徒が多いので、文章題、計算問題等のごくまでは習得していて、どこでつまづいているのかを把握する。</p>	<p>□問題文に書かれた情報を取り出せるようにキーワードに下線を引くよう促す。</p> <p>□文章題の種類に応じて、数量関係をイメージできるように、数直線や図式、言葉を記入したワークシートを用意する。</p> <p>□問題を解かせる前に、教師が解き方の手順を示す。</p> <p>□手順を言葉で確認しながら進める。</p> <p>□考える時間、計算する時間を確保する。</p>	<p>☆ワークシート等の工夫により、対象の生徒はもとより、学級全体の生徒の理解が深まる。</p> <p>☆手順を確認し、繰り返し取り組むことにより、「できた」経験が多くなり苦手意識が改善される。</p>

「注意集中」や「人とのかかわり」への支援

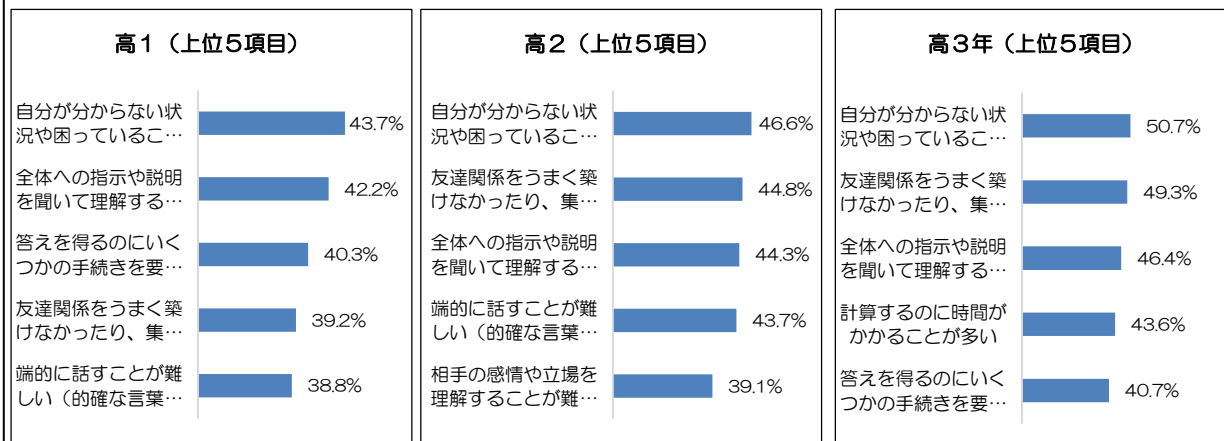
●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●全体への指示や説明を聞くことが難しい。</p> <p>●自分が分からないことや困っていることを相手に伝えることができない。</p> <p>●社会性やコミュニケーション能力の欠如から場に合った適切な言動が分からない。また、友達とトラブルを起こすことがある。</p> <p>●相手の立場やその場の状況を考えずに話す。</p>	<p>○周囲を見て合せているのか、自ら判断して行動しているのか、生徒の行動の理由がどこにあるのかを見極める。</p> <p>○声の大きさや言動について、具体的な例を用いて説明する。</p> <p>○教師と生徒の信頼関係を築く。</p>	<p>□簡潔で具体的な指示や説明を行うとともに、聞いて理解することが難しければ、視覚的な情報を付加する。</p> <p>□興奮している場合には気持ちが落ち着くまで待ち、その後状況を整理しながらどう行動すべきだったのか考えさせる。</p> <p>【→校内研修プログラム 中 36 ページ】</p> <p>□叱りつけたり、どなったりしないようにする。</p> <p>□自分なりのルールをつくっている際には、その背景を聞き取りながら、対象の生徒が納得できるように状況等を説明する。</p> <p>□生徒への言葉がけを好意に満ちた言葉がけにかえて伝える。</p> <p>【→校内研修プログラム 中 37 ページ】</p>	<p>☆落ち着かせてから一緒に考えることにより、トラブルの対処方法を身に付けることができる。</p> <p>☆教師が好意に満ちた言葉で伝えることにより、教師への信頼感をもつことができる。</p>

「読む」ことや「書く」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●読んで内容を理解することが難しい。</p> <p>●文章の中の場面の様子を読み取ることが難しい。</p> <p>●板書を書き写すのに時間がかかる。</p>	<p>○段落などの短いまとまりで読み、意味の理解を高めさせる。</p> <p>○教科の苦手意識から、板書しないのかを見極める。</p>	<p>□生徒の興味・関心の高い題材を活用し、一緒に文章を読んで、教師が文章に対しての説明をし、内容理解の手助けをする。</p> <p>□段落などのまとまりで、内容を箇条書きにした補助的なプリントを視覚的なヒントとして示す。</p> <p>□学習の展開に沿ったワークシートを用意し、書く量を減らす。</p> <p>□板書から書き写す量を減らし、写す時間を確保する。</p> <p>【→校内研修プログラム 中 40 ページ】</p>	<p>☆補助的なプリントを用いることで、対象の生徒はもとより、学級全体の生徒が、内容を理解することができる。</p>

調査結果を踏まえた子どもの困難な状況について ～高等学校1、2、3年生（定時制1～4年生含む）編～

【調査結果】「自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい」「友達関係をうまく築けなかったり、集団での活動ができなかったりすることが多い」「全体への指示を聞いて理解することが難しい」「答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい」など、「コミュニケーション」や「人とのかかわり」、「推論する」、「聞く」こと等に困難があることが分かりました。




【この時期の特徴】家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方などをじっくり考える時期でもあります。

「コミュニケーション」や「人とのかかわり」への支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<ul style="list-style-type: none"> ●自分がわからないことや困っていることを相手に伝えることができない。 ●端的に話すことが難しい。 ●社会性やコミュニケーション能力の欠如から場に合った適切な言動が分からない。 ●相手の立場やその場の状況を考えずに話す。 ●友達関係をうまく築けなかったり、集団での活動ができなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き方が分からないのか、あきらめてしまいいまい聞かないのか見極める。 ○日頃から各活動場面を活用して、教師やほかの生徒に気軽に話すことや、聞くことができる雰囲気づくりに努める。 ○声の大きさや言動について、具体的な例を用いて説明する。 ○対象の生徒だけでなく、周りの生徒たちと一緒に取り組めるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> □その場にいる教師が他の生徒とのコミュニケーションの仲介役となり、モデルを示す。 □相手への伝え方についてロールプレイを行う。 □発表場面の際等、事前に話す内容を整理できるように、「いつ」「何を」「誰が」等のポイントを示したプリントを用意する。 □不適切な言動をしている際に、その場で指導するよりも、意図的に機会を設け、場に合った話し方や行動についてロールプレイを行う。 □その場で指導する場合には、否定的な表現をせず、教師が適切な言動のモデルを示す。 <p style="text-align: center;">【→校内研修プログラム 高49ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> □グループ活動において、対象の生徒の役割を用意し、仲間とのかかわりを増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ロールプレイを行うことで、対象の生徒はもとより、他の生徒たちも場に合った話し方や行動についての理解が深まる。 ☆教師が適切な言動のモデルを示すことにより、対象の生徒はもとより、生徒全員の理解が深まる。

「聞く」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●全体への指示や説明を聞くことが難しい。</p> 	<p>○注意力が散漫で、話が聞けないのか、話している内容が難しく、理解できないのか等、聞くことが難しい理由を見極める。</p> <p>○教師と生徒の信頼関係を築く。</p>	<p>□短い言葉で伝えゆっくり話す。また、1つの説明で1つの行動を指示するようにする。</p> <p>□聞いた内容を記憶するためにメモを取ることや、要点を復唱させて確認するように促す。</p> <p>□自分なりのルールをつくったり解釈をしていたりする場合には、その背景を聞き取りながら、対象の生徒が納得できるように状況等を説明する。</p> <p>□生徒への言葉がけを好意に満ちた言葉がけにかえて伝える。</p> <p>【→校内研修プログラム 高50ページ】</p>	<p>☆好意に満ちた言葉で伝えることにより、教師への信頼感が深まる。</p>

「推論する」ことや「計算する」ことへの支援

●困難な状況	○配慮のポイント	□具体的な支援例	☆予想される効果
<p>●答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。</p> <p>●計算するのに時間がかかることが多い。</p> <p>●個々の出来事を分類したり、比較したり、原因と結果の関係や因果関係をとらえることが難しい。</p>	<p>○文章題に書かれた情報を読み取れるように配慮する。</p> <p>○文章題では、文章の意味が分からないのか、計算方法が分からないのかを把握する。</p> <p>○こまめに肯定的な評価をする。</p> <p>○計算の細かいステップを提示する。</p> <p>○計算のどこまでは習得していて、どこでつまづいているのかを把握する。</p> <p>○原因から結果までの、どの段階でつまづいているのか、把握する。</p>	<p>□文章題の内容について、ポイントとなるキーワードを伝えたり、板書したりする。</p> <p>□問題のポイントとなる部分に補助線を加えるなど手がかりを示したプリントを使用する。</p> <p>【→校内研修プログラム 高53ページ】</p> <p>□計算の手順を言葉で確認しながら進める。</p> <p>□文章題や計算問題について、複数の手続きを分け、段階を追って取り組めるように、プリントを用意する。</p> <p>□順番に事柄を提示する。原因と結果の結び付きをとらえやすくする。</p> <p>□イラストやチャート図を使用し、複数の出来事を整理することを通して、関係性が捉えられるようにする。</p>	<p>☆キーワードを伝えたり、プリントを工夫したりすることにより、問題を解くことができる機会が増える。</p>

特別な教育的支援を必要とする 子どもへの指導や支援に関する資料

道教委・道立特別支援教育センター関係

- 発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための「校内研修プログラム」（「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ）
<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>
- PEARLS OF WISDOM
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=193
- 研究紀要 第20号 校内支援体制の改善・充実を図るためのツールとその活用
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=227
- 研究紀要 第20号 通常の学級における特別な教育的支援の必要な児童への学習指導の工夫
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=227
- 研究紀要 第21号 「個別の教育支援計画」の策定と活用
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=230
- 研究紀要 第23号 幼稚園における特別支援教育の推進に関する研究
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=291
- 研究紀要 第27号 発達障害のある心理的な支援が必要な児童生徒の理解と指導・支援の在り方に関する研究
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=cabinet_action_main_download&block_id=209&room_id=1&cabinet_id=4&file_id=514&upload_id=1159

※ 北海道立特別支援教育センターのホームページでは、上記のほか多くの資料が閲覧できます。
http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=45

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所関係

- インクルーシブ教育システム構築支援データベース <http://inclusive.nise.go.jp/>
 - ・ 「『合理的配慮』実践事例データベース」は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索するシステム
 - ・ 「関連情報」では、インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載
- ※ 国立特別支援教育総合研究所のホームページでは、上記のほか、多くの研究資料が閲覧できます。
<http://www.nise.go.jp/cms/>
- ※ 発達障害教育情報センター～発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援を図り、さらに広く国民の理解を得るために、Web サイト等による、情報提供や理解啓発、調査研究活動を行う。
http://icedd.nise.go.jp/?page_id=1

北海道立特別支援教育センター

北海道立特別支援教育センターでは、特別な教育的支援を必要とする子どもへの指導や支援の方法についての、基礎的・専門的な研修を実施しています。また、各研修講座の他に、自主的に来所して行う「マイブラン研修」や、必要な研修内容に合わせて講師を派遣する「研修支援」なども応じることができます。

電話 011-612-6211

<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課学校教育指導グループ

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館

電話 011-204-5774 FAX 011-232-1049

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/index.htm>